新古今和歌集

下之一

853
166

部類 和歌
函號 二 架 七七
書名 二十一代集
冊數 五六

第七一三號

帝國圖書館藏

渡邊千秋藏書

此歌よみ人しらすとて[illegible]
[illegible]
万葉第七
葛城のたかまのかやのはやしりてしめさゝましをいまそくやしき
[illegible]

万作者未詳
万十　坂氣大首
[illegible]

新古今和歌集巻第十一

恋哥一

題しらす

よみ人しらす

朗詠
よそにのみみてやゝみなむかつらきやたかまの山のみねのしら雲

伊勢集
をとにのみありときゝこしみよしのゝ瀧はけふこそ袖におちけれ
[illegible]

人麿

六　万十一
あしひきの山田もる庵にをくかひの下こかれつゝ我こふらくは

六　万九
いそのかみふるのわさ田のほにはいてす心のうちにこひやわたらむ
[illegible]

女につかはしける

在原業平朝臣

六　伊物
春日野のわか紫のすり衣しのふのみたれかきりしられす

中将更衣につかはしける

延喜御哥

集註伊衡女後撰恋二
更衣歌并ニ御返歌あり

紫の色にはあらねとも深くそ人をおもひそめつる

題しらす

中納言兼輔

六
みかの原わきてなかるゝいつみ川いつみきとてかこひしかるらむ

平定文家哥合に

坂上是則

後拾雑三云　信濃の国よりのほりける[illegible]
[illegible]
馬内侍
[illegible]

六
そのはらやふせやにおふるはゝきゝのありとはみえてあはぬ君かな
（てゆけとも　六）

人のむすめをかよひて侍けるを事にふれつゝ女に
[illegible]

藤原高光

ガラス使用

天徳四年三月晦日
十六番左勝
右中務
むはたまのよるのゆめたにまさ
しくはわかおもふことを
人にみせはや
左歌いとをかし　つよき
ことのとゝのほりたり
はんなかにまさりたる
左勝

年をへて思ふ心の志るしにそ空もたよりの風は吹ける

九條右大臣女にはしめてつかはしける
西宮前左大臣

年月は我身にそへて過ぬれと思ふ心のゆかすもあるかな

題しらす
大納言俊賢母

ともよにはわすられねはつれなき人志れぬこひ路を我のみやせん

天暦御時歌合に
中納言朝忠

人つてに志らせてしかなかくれぬのみこもりにのみ恋や渡らん

はしめて女につかはしける
太宰大貳高遠

金葉　河東
ありるゝを沼の岩垣
あさましきまでかくれくき
高遠
千載　摂政右大臣
五月雨にめもくいん
あやめ沼の岩垣
ほりしくことを

みこもりの沼のいは垣つゝめともいかなるひまにぬるゝ袂そ

いひわたりけるをあはさりし女に
謙徳公

から衣袖に人めはつゝめともこほるゝ物は涙なりけり

左大将朝光五節舞姫たてまつりけるかしつきをみてつかはしける
前大納言公任

あまつ空とよのあかりにみし人の猶おもかけのしひて恋しき

つまかくれ侍りける女に志のひてものいひわたりける
謙徳公

後拾六 四八
後撰恋三 女のもとにつかはしける 人しれぬ身をいそけとも年をへてなと越かたき逢坂の関
返し
あふ坂はゆききの人もしるものをわか越かたきせきそ関
小野好古朝臣女

くらゐをわかれてしのひてこそえさはいはめ宮
のしれすかはしてさしいらへけれは
さらひ侍れは 本院侍従
（藤原深女）

我やまつたえなんことも何のやしめそこそみめやと

返し 忠義公
（堀河太政大臣兼通）

わか思ひ空のけふりと成ぬれは雲ゐなからもなを尋ねてん

題しらす 貫之

きみしあれ恋を雲にはかへつゝ世をつくしね山をかへすかな
（いりえきえつ）

清原深養父

恋ゆ思ひはかねとも人しれす思ひてなくはかなしとのこそなく

後恋一 読人不知
まてといふにちらてしとまる物ならはなにを桜に思ひまさまし

女につかはしける 藤原惟成
（左少弁雅材子 正五位下権左中弁 出家五位摂政玉寛和二年）

風ふけはむろのやしまの夕烟心の空にたちにけるかな

かへりまうしけるあしたにをかしけれはきれのこみ
なくかへりてまうてけるにとはかりまかりあはて侍けれは 藤原義孝

白雲の居所をとかへらんゆくへも見えされ岩乃標を

題しらす 和泉式部

けふも又かくやいふきのさしも草さらは我のみもえやわたらん
（六帖）
[illegible]

後拾遺恋一 実方
かくとたにえやはいふきの
さしも草さしもしらしな
もゆる思ひを

冷泉院春宮と申ける時百首の歌たてまつりけるによめる 源重之
（家百首中）

後撰
かくとたにえやはいふきのしめり
さしも草しらしな思ひを
もゆる思ひを

後撰六 [illegible]
[illegible]

わか[illegible]年にはまかりせしく[illegible]をわか[illegible]しそこえたか[illegible]

[illegible]

堀河関白文なとつかはして
とひ侍りけれは　本院侍従　（棟梁女）

我やとはそこともなにかをしへけむいはてこそみめ尋ねけりやと

題しらす　忠義公　（堀河太政大臣兼通）

わか思ひ空のけふりと成ぬれは雲ゐなからも猶尋ねてん

題しらす　貫之

しるしなき煙を雲にまかへつゝ世をへてふしの山ともえなむ

清原深養父

煙たつ思ひならねと人しれすわひてはふしのねをのみそなく

後撰一　読人不知
[illegible]

女につかはしける　藤原惟成　（左少弁雅材子　正五位下　権左中弁　[illegible]五位　摂政[illegible]　寛和二年）

風ふけはむろのやしまの夕煙心の空にたちにけるかな

[illegible]
[illegible]　藤原義孝

白雲の峯にしもなとかよふらんおなし三笠の山のふもとを

後拾遺一　実方
かくとたにえやはいふきのさしも草さしもしらしなもゆる思ひを

題しらす　和泉式部

けふも又かくやいふきのさしも草さらは我のみもえやわたらん

[illegible]

源重之

つくは山はやましけ山しけゝれと思ひ入にはさはらさりけり

古今廿
つくはねのこのもかのもに影はあれと君かみかけにますかけはなし

常陸風俗
つくは山はやましけ山
しけきをそたかこも
かよふな下にかよへわかつまは
いきてよ

又のとし人々あまたまうてける女ありけるにつかはしける

大中臣能宣朝臣

我ならぬ人に心をつくは山下にかよはむ路たにやなき

大江匡衡朝臣

人しれす思ふことはしけき山下のかよひちみえん

女を抱ましにかゝるこにみえくはへりけれは

清原元輔

春旅ん哉乃さ花桜花思ひやみてしわかるなれ
年をへくかい涙を人乃女乃さしはよをむらく

家集云
中務かもとより中納言
住吉まかりて人々
あいゐりくときゝて
拾雑云　浄蔵
あかしに山のあけほのゝ
さくら花おもひやりて
やまかくしさん

ちかるはわけ侍よし　（以上家）

えしける

大中臣能宣朝臣

てかはらふらる花とあるまて抱思ひてま春にわよらう

躬恒

墨山の霞さへひこそ袖かるとのかくいふともみえくや侍らん

大和物語云　先帝の御時
刑部の君とてさふらひ
ける人ありけるか更衣なりき
ときかくれさせたまふ
ひてしくおはしましけるを
つたへきこしめしてよ
ませたまへりける

亭子院御歌

むかしを流る涙の数まれやかれにめくらてかれはけるらん

五月雨にかゝる風吹けるまゝ女をはなれて侍けるに

謙徳公

春風の吹くにもまさる涙かな我みなかみも花とちるらし

むすめにおくれて侍りける

後撰四　読人不知
浪のうへにうかひてなかる
水鳥のうきねしつへき
らん年をふるとも

古今恋一　忠岑
春日野の雪間をわけて生出くる
草のはつかに
みえし君はも

蘆辺より満くる潮のいやましに思ふか君か忘かねつる　許

題しらす　曾禰好忠

かた岡の雪間にねさす若草のほのかにみてし人そこひしき　巳上家

うつゝとも世のならひのつらさとて人の
うき世待れて二月はかりわすらるらん待けむ

和泉式部

わすれ草我身につまんとおもへともわすられかたきものにそありける　同

題しらす　藤原興風

冬乃よ濱千鳥
うきねの浪にたちゐつゝ
ものゝ思ふ人のうき
ねをのみそなく
さよふけて今もなほ
万葉にもみえたり

冬万冬　興風集

霜乃うへに跡ふみつくる濱千鳥ゆくへもなしとねをのみそなく　業平下素性　道鳥冬

中納言家持　大伴宿祢家持

家集云一條の尚侍のもとに
つかはしける人

万八　大伴家持　不載集

秋萩乃枝もとをゝに置露乃今朝消ぬとも色に出めや　一万十　はるかなるふなきにこひつゝわたる　もゝ万

藤原高光

新和歌五　頭中将に侍り
ける時忍草のもとを…くるかた
とてつかはしけるに女のかへ
ことにしける

蓮生云

秋風に亂て物ハ思へとも萩乃下葉の色ハかはらす
思草葉末にむすふしら露のたまたまきては手にもかゝらす

ゆかりしるへを

花園左大臣

数ならぬ身にや思ひしわれ恋の心をしらせしにやあらむ

和歌所歌合に久恋といふことを

摂政太政大臣

一万十
いそのかみふるの神杉
かみさひて恋をも我は
さらにするかも

いそのかみふる乃神杉ふりぬれと色にハ出す露も時雨も

小野宮家歌合に忍恋のこゝろを

ガラス使用

時雨の雨まなくしふれは
真木の葉も
あらそひかねて色
付にけり

つまなは人とひ
をしこしにし
なく

空蝉の羽におく露
のかくれてしのひ
しのひにぬるゝ袖
伊勢

後漢のくるまゐんといふこの
螢をあつめて文を
侍りけるハたのさ
その袖につゝみて
つゝめともかくれぬものは夏虫の
身よりあまれる思ひなりけり

大和物語ニアリ

太上天皇
我恋はまきの下葉にもる時雨ぬるとも袖の色に出めや

百首哥奉りしに恋の哥
前大僧正慈圓
わか恋は松を時雨の染かねてまくすか原に風さわくなり

家に歌合し侍りけるに夏恋の心を
摂政太政大臣
うつせみの鳴ねやよそにもりの露ほしあへぬ袖を人のとふ（まで）

寂蓮法師
思ひあれは袖に螢をつゝみてもいはゝや物をとふ人はなし

後撰六
思ひつゝへにける年を
しるへにてなれぬる
ものは心なりけり

古今
人しれぬ思ひのみこそわひしけれ
わかなけきをは我のみそしる
拾遺一小野宮太政大臣
人しれぬ思ひはとしも
へにけれと我のみしるは
かひなかりけり

古今
我恋を人しるらめや敷妙の
まくらのみこそしらはしらめ

水無瀬にておのことも久恋といふ事をよませ
給しに
太上天皇
思ひつゝ経にける年のかひやなきたゝあらましの夕暮の空

百首哥の中に忍恋を
式子内親王
玉の緒よたえなはたえねなからへは忍ふる事のよはりもそする

忘てはうちなけかるゝ夕かな我のみしりて過る月日を

我恋は知人もなしせく床の涙もらすなつけのを枕

百首歌よみ侍りける時忍恋
入道前関白太政大臣

續古今巻四　清輔
[illegible]

古今　[illegible]
[illegible]
萬葉集
天乃原[illegible]
[illegible]
新勅撰集
[illegible]

志賀の宮よむ乃ひらくはなれしと枕とゝめは波にわたらな

冷泉院みこの宮と申ける時さふらひける女房
とみかはしていひわたり侍けるころてならひし
けるところにまかりてものにかきつけ侍ける

謙徳公

つれなきを恨んとこそ思ひしか人わすれゆくをまちわたるかな

題しらす　読人しらす

雨ふらはふかのめたのよのをは思はぬ人をみるくるしさかな

題しらす　紀貫之

（家）風ふけはとはに浪こすいそなれや我衣手のかはく時なき

下巻五　[illegible]

大和物語
[illegible]

家集　[illegible]
[illegible]

拾遺二
[illegible]

續拾遺巻四
[illegible]

拾遺一　[illegible]
二条[illegible]

道信朝臣

すまのあまの浪かけ衣よそにのみきくは我身になりにけるかな

らまた月をもよほすとて人のもとに
思ひやる

三條院女蔵人左近

時すきて袖そぬれわたるあやめ草をしはなにはかにゝもとめしまれ

五月五日ある所に侍よつかはしける

前大納言公任

晴る川かと待しあやめ草ふかつらなる音にこそなけ

馬内侍

郭公いつかとまつ[illegible]

続古今恋四　清輔
[illegible]

志賀の浦よむかしのひさしきなれしとおもはぬ波になれなれ

冷泉院みこの宮と申ける時さふらひける女房
をみかはしていひわたり侍けるころてかくことかなひし
らすしてとしまかりてとのつかふつけ侍ける

謙徳公

つらけれと恨らんとくちおもほえすなほゆくさきをたのむ心に

古今　僧正遍昭
[illegible]

萬葉集
[illegible]

返し

読人しらす

雨ふれはかさとり山のもみちはゝ思ひそめてし人をみることかなしき

題しらす

紀貫之

風ふけはなみこすいそのそなれ松我衣手に風のふく時

下恋五
[illegible]

拾遺一
[illegible]

大和物語
[illegible]

道信朝臣

次もなき海の浪かけ衣とそいのちさくは我身に陰になりける
ふかき月と共よつれもしてわたりにはかなき

三條院女蔵人左近

ぬまにおふる袖そぬれぬるあやめ草むなしきねをとりもせて

家集
[illegible]

拾遺二
[illegible]

五月五日ある内侍につかはしける

前大納言公任

時鳥いつかと待しあやめ草今日はいかなる音にかなくへき

後拾遺恋四
[illegible]

返し

馬内侍

五月毎に見しあやめ草つねよりもきこえは人もとかめぬ

無端にも待月をいかによそれゝとなるか
そめあたにのそしなる

法成寺入道前摂政太政大臣

誰そこの誰とをとこけに花乃雪にはうつゝこそあれ梅花とそ見れ
切人

返し　馬内侍

かくまれに芝花もろ地とかしら末れとみても都乃雪を侍るかう多
浦る乃みかるけ毎ゝゝら洲やと申いらんみよ

むのこそにみかつ郭公人の声乃ちかよる様にかなしかるれ

後拾雑二
入道前太政大臣云閑侍りける
時一条左大臣の家にまかりて
うらのめくらつるちんあるまとて
知りてこへといひけ
みちを作りておく
よみける　馬内侍
まるのつまかくゝも
つるかまゝうしくれの
りうつしものと

題しらす　伊勢

六　新
みく海の浦よりをちにこく舟の我をはよそに隔てつるかな

新
難波かたみしかき蘆乃ふしのまもあはてこの世をすくしてよとや

人麿

万十二　作者未詳
みなと入の葦わけ小舟さはりおほみわかおもふ人にあはぬ比かな
ことまれ　万

よみ人しらす

六
さとゝ海のうらとくのこやは世と海ん浪からく逢こそかな
てのとて　六

六
東路乃道の果なるひたちおひのかことはかりもあはむとそ思ふ
さてもてしかな

伊勢集人　枇杷左大臣かうへし
みかき河の下の人ゝ車しらかくらぬいてかのこの夜新朝臥

いせ集　中宮嫌大政大臣
河海ゐ冬乃風ゝのは〻すそ抱思ふ冬の袖ぬわろ
ぬれ
いせ集下旬
ふにり

伊勢集　よみ人
玉江
ともすのつまこゝへきつ
よこもとのてかひちか
玉江
新もゆきぬくちか

家集
ゐてのさくらの
あさのみと

わかとのこ前にきつゝとゝも酒まても袖ゝ歌とみるらし
も　六

六帖
みくさ〻思乃末のうもと哂もも雛か人君とうし人と思ひし
葛　六
新勅撰恋五　忘らるゝ身をしるあめのへとそ世のなきさてちる　土佐

ガラス使用

うたにはおなし国ゆへり
濱千鳥我袖乃上
にうしろ同よめる
を先としる

後撰冬　読人不知
思ひつゝねなくにあくる
冬の夜の袖の氷は
とけすもあるかな

同恋一　同
なかなかにたのむと
こほりてふしに
つらけれも見ゆる

六帖　よみ人しらず

後拾　恋四
泪川おなし身よりはなかるれと
こひをはけたぬ
ものにそありける

新拾　恋四
恋の歌の中に　実方朝臣
をちこちもくめちの橋
も中絶てかよふらん
かつらきの神

此上四首尾

我袖に跡ふみつけよ濱千鳥あふことかたし見てもしのはん

女のもとにまかりて侍りけるに霜のいたくふりて見え
しう侍りければ

中納言兼輔

家
冬の夜の涙にこほる我袖の心とけすも見ゆる君かな

て

えしれ 家

（拾遺恋二　つれなく侍りける人のこほれるなかにおこせて侍りける返事のせて）

題しらず

藤原元真

家
霜おきて汀もとけぬ冬の池にねをしてこそなく鴛の一声

家
涙河身もうくはかりなかるれときえぬは人の思ひなりけれ

女につかはしける

実方朝臣

いかにせんくめちの橋のなかそらに渡しもはてぬ身とやなりなん

女のもとにまかりけるを人のことにみくるしく侍りければ

難波江のこほれるひまもあらなくにいその松の我と思はん

山をと 家

題しらず

小弁

我恋はつゝめとかひそ難波なる葦のしのやの下にこそたけ

伊勢

家
わか恋はありその海の風をいたみしきりによする波の間もなし

ありや 家

人につかはしける

藤原清正

家
須磨の浦に塩竈のこかれてもしほ煙風になひくとも知らし思ひを

こひ 家

題しらず

源景明

拾遺作方

うらかせにひとかたよするさゝ浪のくたけて物思ふ我身なりけり

貫之

家 六 わしひよの山下たえつゝし浪のおとに[illegible]きて人[illegible]

家 六 [illegible]の[illegible]けゝる夏草のふかくも君をおもふころかな

坂上是則

家 としからき夜野の草の道とをこえけるも[illegible]海[illegible]

みしとも　こも　已上家

曾禰好忠

六月和

後拾遺一　馬内侍
いろ[illegible]
ゆらのとはくるしきに
人しまれけめと
丹後撰にし述懐

夫木廿三　家集　松風[illegible]とこそるまと　神祇伯顕仲て
[illegible]嫁の雲見よ[illegible]人
大納言通具

新勅撰　旅
[illegible]嫁の浪枕[illegible]しほ風
未詳　丹後撰とも述懐てとめまえ山中ニ丹後の由良まし

ゆらのとをわたる舟人かちをたえ[illegible]こそしや我身の[illegible]

[illegible]とゑし汐をともてぬ遊れつゝ[illegible]

[illegible]人とや[illegible]　[illegible]集

人の[illegible]のことし宿風遊[illegible]

権中納言師時

堀川左大臣俊房公子

[illegible]とよき行[illegible]

おひかせにやへのしほちを行舟のほのかにたにもあひ見てしかな

[illegible]好忠
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

方七
[illegible]玉を拾て
[illegible]

百首歌たてまつりし時

摂政太政大臣

かちをたえゆらの湊による舟はたよりもしらぬ沖つしほ風

丹後撰云述懐とみえハ山中ニハ丹後の由良なるへし

式子内親王

しるへせよ跡なき浪にこく舟の行衛もしらぬ八重の塩風

権中納言長方

紀の国やゆらの湊にひろふてふ玉さかにたにあひ見てしかな

法性寺入道前関白太政大臣家歌合に

権中納言師俊

堀川左大臣俊房公男

つれもなき人の心のうきにはふあしのしたねのねをこそはなけ

ガラス使用

後拾遺十一　馬内侍
[illegible]
丹後掾[illegible]
[illegible]丹後の
ゆら[illegible]丹後のゆら
とハ紀の国のゆら
のみなと[illegible]
不審あるへし

あしひきの山下たきついはなみの心くたけて人そ恋しき

あつまのゝ[illegible]夏草のふかくも君を思ふころかな

坂上是則

よしかゝる夏野の草の道を[illegible]（已上家）

曾禰好忠

蚊やり火のさ夜ふけかたの下こかれくるしや我身人しれすのみ（蚊遣火　[illegible]）

ゆらのとをわたる舟人かちをたえ行ゑもしらぬ恋の道かな

寄海といふ心を

権中納言師時（堀川左大臣俊房公子）

おひ風にやへの塩ちをゆく舟のほのかにたにも逢見てしかな

ゞ　曾禰好忠
[illegible]
人の心も[illegible]ゆくへも
しらぬものかな

古今　ゞ
白波のあとなき方に
ゆく舟も風そたよりの
しるへなりける

ゞ　万七
妹かため玉をひろふと
きのくにのゆらのみさき
にこの日くらしつ

百首歌たてまつりし時

摂政太政大臣

かちをたえゆらの湊による舟のたよりもしらぬおきつ塩風（ゞ　丹後掾[illegible]丹後のゆらなるへし）

題しらす

式子内親王

しるへせよ跡なき浪にこく舟の行ゑもしらぬやへの塩風

権中納言長方

きのくにやゆらの湊にひろふてふたまさかにたに逢見てしかな

法性寺入道前関白太政大臣家歌合に

権中納言師俊（堀川左大臣俊房公男）

つれもなき人の心のうきにはふあしのしたねのねをこそはなけ

ガラス使用

和歌所哥合に忍恋をよめる

摂政太政大臣

難波人いかなるえにかくちはてんあふことなみに身をつくしつつ

千 後恋五　読人不知
よなのこゝろ[illegible]を
みちはてをあつるれ
こと[illegible]し[illegible]を

千 同恋三　読人不知
名のうきしあつるものゝ
[illegible]に[illegible]まると
わ[illegible]らん

新続古今恋一　人しれずおもふ心を[illegible]
[illegible]の[illegible]のことのはを[illegible]
人[illegible]

皇太后宮大夫俊成

わすれなんみるめを浦に海人のせいかくされ濱を過ぬる

題しらず

相模

逢まてのみるめかるへき方そなきまた浪なれぬ磯のあま人

伊勢

業平朝臣

みるめかるかたやいつこそさほさして我にをしへよあまのつりふね

ガラス使用

新古今和歌集巻第十二

恋歌二

抄云
かすかなる雲に消なん
烟にも跡あるへきを
くゆるなるへし

五十首歌たてまつりしに寄雲恋
皇太后宮大夫俊成女
したもえに思ひきえなん烟たに跡なき雲のはてそかなしき

摂政太政大臣家百首歌合に
藤原定家朝臣
なひかしな海士のもしほ火たきそめて烟は空にくゆりわふとも

百首歌たてまつりし時恋歌
摂政太政大臣
恋をのみすまの浦人もしほたれほしあへぬ袖のはてをしらはや

万葉寄藻 廿
しほみては入ぬる磯の
草なれやみらくすくなく
こふらくのおほき
此哥によりてよめる
歟

恋歌とてよめる
二條院讃岐
見るめこそいりぬる磯の草ならめ袖さへ浪の下に朽ぬる

源中納言国信家歌合也 在昭
于時宰相中将

年をへたる恋といへる心をよみ侍ける
俊頼朝臣
[illegible]　哥人
君こふとなるみの浦の浜楸しほれてのみも年をふるかな

忍恋のこゝろを
前太政大臣
知らめや木の葉ふりしく谷水の岩まにもらす下の心を

左大将に侍ける時家に百首歌合し侍けるに
忍恋のこゝろを
摂政太政大臣

雲のゐる[illegible]の白山、
[illegible]おほくの[illegible]
のゆき[illegible]まて　[illegible]
玉葉　定家
清水[illegible]山の寺の
[illegible]
五月雨の空
新後撰　西園寺
[illegible]
[illegible]
まかて桜と
新拾遺　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
後西園寺
[illegible]
[illegible]
[illegible]
後拾遺　源親行
[illegible]
[illegible]
[illegible]

とゝも[illegible]雲ゐの秋の初[illegible]木の下に袖の[illegible]とも

忍ふあまりて見侍りけるに　後徳大寺左大臣

かくとたに思ふ心をいはせ山下ゆく水の草かくれつゝ

殷富門院大輔

もらさはや思ふ心をさてのみはえそやましろの井手のしからみ

忍恋の心を　近衛院御製

恋はこと[illegible]乃ゆくへに[illegible]や人[illegible]思ひぬる

見れともわすれぬ恋といふ心をよみ侍ける

花園左大臣

人しれぬ恋に我身をしつめても[illegible]

次郎百首　恋志

題しらす　三位　神祇伯顕仲　六条右大臣顕房子

色乃思ひ空につもりぬ[illegible]かはらぬ思ひも[illegible]神のしるらん　次郎一本　次郎二十日

忍恋の心を　清輔朝臣

人しれすくるしき物はしのふ山下はふ葛のうらみなりけり

和歌所歌合に忍恋の心を　雅経

きえねたゝしのふの山の峰の雲かゝる心の跡もなきまて

千五百番歌合に　右衛門督通光

古今 〻 忠岑
住てきけは開とらう
てもようとりおと
とららしとのき

古今
いかならん巌の中に
すまはかは世のうきこと乃
きこえこさらん
新勅　大納言忠良
世のうさをまたこゝ
ろにおもひしる人は
ほの中にすみ(?)もゆ
さし

万　人丸
衣かへゆくそしらの
つゆ川のもとすれ
まさみ人瑞らら
と

限われし思ふよれ山乃麓にもむらしかうへの住もたえつゝ

二條院讃岐

うらやましくもすみはしたなき人のこゝろよし浦の塩竈もなき

和哥所歌合に旅思濱恋といふことを

春宮権大夫公継

あらしふく石間つたひの苔門もせをまくにふる水のさひしされ

歎老の次

信濃　後鳥羽院の下野し

今とまる姨ゝ見ぬ山の思ふくれかゝる涙を袖にやくらむ

西行法師

くものかゝる思ひ乃をさ海に独ぬく人の枝をとりて地掘りかへて

数ならぬ身をなにゝなしてそむく世てしそれとも〳〵ときくらむ　ノイ

老若乃十五首歌合に夏恋を

摂政太政大臣

草路乃記夜野ゝ行さとしかの音をきゝてそね寝覚そ　これらく

入道前関白右大臣に侍ける時百首歌人〳〵
よませ侍りけるに思懐乃心を

大宰大貳重家

隠乃世をなけく涙にひかりくまかやせまし墨染の袖

大納言成通あひつかうまつれりけれとつれなかりけれは
女と後の世まて恨のこすへきよし申けれは

伊勢物ゲ
見すもあらす見もせぬ
人の恋しくはあやなく
けふやなかめくらさん

ゲ
しるしらぬなにかあや
なくわきていはん
おもひのみこそしるへ
なりけり

古今ゲ
夕くれは雲のはたてに物そ思ふ
あまつ空なる人をこふとて
人をこふとて

読人しらす

玉章のかよふはかりになくさめて後の世まての恨のこすな

前大納言隆房中将に侍りける時右近の馬場の
ひをりの日まかれりけるに物見侍りける女車より
つかはしける

ためしあれはなかめはそれと知りなからおほつかなきは心なりけり

返し

前大納言隆房

いはぬより心やゆきてしるへするなかむる方を人のとふまて

千五百番歌合に

右衛門督通光　具ハ拔

なかめわひそれとはなしに物そ思ふ雲のはたての夕暮の空

古今　本歌二首
すまのあまの塩やき衣
をさをあらみまとをにあれや君か
きまさぬ
[illegible]
十寸杉もしてける
[illegible]
[illegible]
十寸杉とかけるて候
の本にも十寸杉と
書きたる杉かあり
假名集中にも十寸とは
ある歟しるしたれと
[illegible]
[illegible]
[illegible]

雨のふる日女につかはしける

皇太后宮大夫俊成

思ひあまりそなたの空をなかむれは霞をわけて春雨そふる

水無瀬恋十五首歌合に

摂政太政大臣

山かつのあさのさ衣をさをあらみあはて月日やすきふける庵

欲言出恋といへる心を

参議　藤原忠定　大納言兼宗男

おもへともいはて月日はすきのかとさすかにいかゝしのひはつへき

百首哥たてまつりし時

ガラス使用

新勅秋下　前関白
[illegible]
雲乃上よ秋をへて月の
[illegible]

新千載　後西園寺
入道前太政大臣
袖のうへ[illegible]
[illegible]
[illegible]秋のよの月

[illegible]人の
[illegible]
[illegible]

皇太后宮大夫俊成

逢事はかた野の里乃さゝ乃庵志のに露ちる夜半の床哉　抄

入道前関白右大臣に侍りける時百首哥の
中に忍恋

ちらすなよしのゝ葉草（不審）のかりにても露かゝるへき袖のうへかは

題しらす

藤原元真

しら玉か露かと問む人もかな物思ふ袖をさしてこたへん

女に遣しける

藤原義孝

以川まて乃命とも志らぬ世中につらきなけきのやますもある哉　抄

崇徳院に百首哥たてまつりける時

伊勢（歟）
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大炊御門右大臣（公能）

我恋はちきのかたそきかたくのみ行あはて年のつもりぬる哉　抄

入道前関白家に百首哥よみ侍りけるに
忍恋といふこゝろを

藤原基輔朝臣（三位 殷輔子）

以川となく志ほやく海士のとまひさし久しくなりぬあはぬ思ひは　抄

夕恋といふ事をよみ侍りける

藤原秀能

もしほやく海の磯屋の夕煙立名もくるし思ひたえなて

海邊恋といふ事をよみ侍る

定家朝臣

後拾三　顕昭
[illegible]

後又拾　元良親王
[illegible]

古今
名取川[illegible]

[illegible]
[illegible]

家持集
[illegible]
若菜下　廿三宮
[illegible]

須磨の蜑の袖に吹こす塩風のなるとはすれと手にもたまらす

摂政太政大臣家歌合によみ侍ける

寂蓮法師

ありとてもあはぬためしの名取川くちたにはてね瀬々のむもれ木

千五百番歌合に

摂政太政大臣

なけかすよいまはたおなし名取川瀬々の埋木くちはてぬとも

百首歌よみ侍ける

二条院讃岐

涙川たきつ心のはやき瀬をしからみかけてせく袖そなき

摂政太政大臣百首歌よませ侍ける

高松院右衛門佐

よそなからあやしとたにもおもへかし恋せぬ人の袖の色かは

恋歌とてよめる

読人しらす

忍ひあまりおつる涙をせきかへしおさふる袖よ浮名もらすな

入道前関白太政大臣家歌合に

道因法師

紅に涙の色のなりゆくをいくしほまてと君にとはゝや

百首歌中に

式子内親王

夢にても見ゆらん物を歎つゝうちぬるよひの袖のけしきは

かくて[illegible]のよの夢よみえて[illegible]

ガラス使用

後徳大寺左大臣

はかなくて後葉中か宇中かと思ふゆめとわれ名残杉くゆふわらぬ

千五百番歌合に　　摂政太政大臣

見しは人のおもかげ乃風寛秋もさえしかん露の中かぞわともしら袖に

題しらず　　大納言実宗
（坊城内大臣　大納言公通子）

荻風のよはのとこみえ浦の霞ゆくらつれなきつれわき袖ぬ進れ

又十首歌よみてまゐらせし時

前大納言忠良

伊勢
みけしさしのゝも
けふしにふみとふ
しくえてきてあれ

なにはめとき渡菊の露に秋けく吹きて霞ぬかなら

通河恋といふ事を　　正三位経家

思ひやる心は河の瀬によどむせをあてはなとをとめにそむ

宮なよさかひとまつ恋といへる心を

賀茂重政

これゆめて見とをるけがるゝ見山の雲の中に小結ぬ

摂政太政大臣家百首歌合に

中納言家房
（松殿入道基房公息　中納言作者アリ）

かくしえやといふき
のちもあらしも知
られりゆるえひと

逢事は小川といふ清き流れにもつるさとゝをとめ思ひ捨つる

家隆朝臣

天暦御製
世の人はおもしぬあと
うみゆめやすきこう
きこえしちらむを

嬉しさの思ひ出をしたての衣を抱きゐて立ちは待つ

名立恋といふ心をよみ侍ける

古て　ころ[illegible]
つらしとゆふへも
ちにたえきえの[illegible]
けふを限と思[illegible]
こゝろそ

目てかくをきかあの
ころ[illegible]
かよの[illegible]

権中納言俊光
あさ君のこゝろつくしの山すまひつらきおもひも忘られぬ縁とそ思ふ

百首哥中にこひのこゝろを
惟明親王
何ゆゑのむかしこゝろに思ふらむ[illegible]恋わたる

右衛門督通具
[illegible]逢とかきさは[illegible]

水無瀬にて十五首哥合に[illegible]

皇太后宮大夫俊成女
[illegible]月[illegible]袖のかみてそ

有明のつれなく
見えし
大き[illegible]月をも
めてし

冬恋
定家朝臣
床乃霜枕のこほりきえわひぬむすひもをかぬ人のちきりに

摂政太政大臣家百首哥合に暁恋
有家朝臣
つれなさのたくひまてやはつらからぬ月をもめてし有明の空

宇治にて夜恋といふ事をおのこともつかうま
つりしに
藤原秀能
袖乃うへに誰ゆゑ月はやとるそとよそになしても人のとへかし

久恋といふ事を
越前
衣手のてひなれにし乃年をへて絶ぬ思ひにむすほゝれつゝ

古て
[illegible]川の[illegible]の糸を
ちよ[illegible]くりくそ
経[illegible]

後拾遺雑六
おく山にたきりておつる瀧
つせのたまちるはかりものな
おもひそ

六帖
祈てたのむそつれ
[illegible]
[illegible]
信実朝臣
[illegible]

新古今恋一
藤原輔相
[illegible]
[illegible]

家に百首歌合し侍りけるに祈恋といふ心を
摂政太政大臣
いく夜我浪にしほれて貴船川袖に玉ちる物思ふらん

定家朝臣
年もへぬ祈る契ははつせ山をのへの鐘のよその夕暮

かゝ思ひのきゝてわすらるゝ人歌

皇太后宮大夫俊成
うき身をは我たにいとふいとへたゝそをたにおなし心と思はん

題しらす
権中納言長方
恋しなんおなしうき名をいかにしてあふにかへつと人にいはれん

拾恋一　読人不知
いかにしてしはしわすれん
いのちたにあらはあふよの
ありもこそすれ

後撰恋二
藤原忠国
いさりひのよるはほの
かにかくしつゝありへは
こひのしたにけぬへし

金葉雑下　橘元任
明しらぬのちのみのみ
[illegible]
[illegible]

あすしらぬ命をそ思ふおのつからあらは逢世を待につけても
殷富門院大輔

つれもなき人の心はうつせみのむなしき恋に身をやかへてん
八条院高倉

西行法師
なにとなくさすかにおしき命かなありへは人や思ひしるとて

思しる人有明の世なりせはつきせす身をは恨さらまし

後拾遺　和泉式部
こよひさへあらはかくこそ
おもほえめけふくれぬま
の命ともかな

赤染衛門
[illegible]
[illegible]
まの命ともかな

新古今和歌集巻第十三

恋歌三

中関白かよひそめ侍ける比
儀同三司母
忘しの行末まてはかたけれは今日をかきりの命ともかな

忍ひたる女をかりそめなる所にゐてまかりて
かへりて朝につかはしける　謙徳公
かきりなく結ひをきつる草枕いつこのたひを思ひわすれん

題しらす　業平朝臣
伊勢
思ふには忍ふることそまけにける逢にしかへはさもあらはあれ

ガラス使用

人乃りとにはかなかりける（?）そめて難はよつなりし哉

（拾遺家集　はつ[illegible]とみりひ　しとはしといのちの[illegible]）

廉義公

本云　清慎公子

昨日まてわひ乃来へと思ひしもわか命なりけりたのむ静

古今　余りをはるを家の[illegible]と[illegible]　在則

百首哥よ

式子内親王

此集に有間皇子の歌とて

わ公とを松の枝乃手向草いく世志よ袖とかなる

（義孝　君かためをしからさりし　いのちさへなかくもかなと　思ひけるかな）

（万一又九　河嶋皇子　山上憶良）

（白なみの浜松かえの　手向草いく世まてにか　年のへぬらん）

頭中将よ侍ける時五節所にて

く猶熟く津りそうし分

源正清朝臣

なつさへ夢ふそ影しく光ひけし露よ袖はぬれける

西行法師

わすれしを命かきりと思ひしはくやしかりけるちきりなりけり

（家集ニハ七云　[illegible]）

三条院女蔵人左近

人をうしとおもふ猿沢乃池のわさてもいかにはてはなかるらん

（古今　小町　世の中の人の心は[illegible]）

（文末新五　家集　古中納言匡房に　[illegible]）

興風

家集

逢みてはかひなかりけり玉乃をの絶えぬ思ひにおもはるるかな

実方朝臣

（古今　めくらむのやまとかくれ[illegible]）

（後撰恋三　読人不知　[illegible]）

中々に思ひそめては袂のみ深きなかるも猶むすひ

のち　八代

思ひあるを人とぬるらし

（古今　[illegible]人　[illegible]）

家

六ソセ

夢にても人をかた見に涙のみたえせぬ袖をなにかこたへむ

伊勢

古今
わか恋を人しるらめや
しきたへの枕のみこそ
しらはしるらめ

いまゝて二そても
こゝろと夢路する
なし

新後拾恋三　読人不知
つらかりし月日のうさもわすれては
ちきりし夜半の夢やうつゝの
しるしなるらん

題しらす　　和泉式部
枕たにしらねはいはし見しまゝに君かたるなよ春の夜の夢

人に物いひはしめて　　馬内侍
忘れても人にかたるなうたゝねの夢見てのちもなからぬよを（しイ）

女につかはしける　　藤原範永朝臣
つらかりし多くの年は忘られて一夜の夢をあはれとそ見る

題しらす　　高倉院御歌
今朝よりはいとゝ思ひをたきましてなけきこりつむ逢坂の山

万
いもかくのみ恋ひしわたらは
あらたまの年はふるとも
わすれさらまし

初会恋の心を　　俊頼朝臣
あしのやのしつはたおひのかたむすひ心やすくもうちとくるかな

続後撰恋四
みても猶人はとたえの
はかなさに
りける　　相模
いかにせん信夫の杜の
涙まてもくもりはてなん
こゝろのうちを

金葉雑上　読人しらす
いかにせん山田にかこふ
垣葉のもれてしのふまに
かくれなきみと

和泉式部日記
敦道親王
あけさらぬ宵の月を
見るまゝにぬれて袖
こそいまもかはらね

題しらす　　よみ人しらす
かりそめにふしみの野への草枕露かゝりきと人にかたるな

人しれすしのひける事をふみなとちらすときゝける人に
つかはしける　　相模
いかにせん葛のうら吹秋風に下葉の露のかくれなき身を

題しらす　　実方朝臣
あけかたき二見の浦による浪の袖のみぬれておきつ島人

いせ集　枇杷左大臣返し
伊勢
逢事のあけぬ夜なからあけぬれはわれこそかへれ心やはゆく

九月十日あまりなるに夜ふけて和泉式部か門たゝかせ

あらしの世侍りけるよまうてつかうまつりそめけれはなりけり
まつりける　太宰帥敦道親王（冷泉院皇子）

夕日うつる花の色まて
色かはるへらまらん
同歌　ありゆく
見らかくみえてた
ふるまてまま
たまる

和漢朗詠
秋風の吹き暁乃月のへすてやすらひかくもそかなし
観音てまつる　道信朝臣
見あさとおもひぬ秋の夜のなかき月をみてさらぬかな（一万十五　いぬのときよりのときのころ）

近江更衣によませ給ける
延喜御哥

後撰恋三
更衣源清子に給ける
延喜御製
朝露のおきつる人を
おもほえすいかに
見えてもきえなん

はかなくも明にけるかな朝露のおきての後そ消まさりける
返し
更衣源周子（右大臣唱女　生旅時明并内親王三人）
朝露のおきつる空も思ほえす消かへりつる心まとひに

題しらす
圓融院御哥
とにかくに露やいかなる物ならむ今はきえねと思ふ我身を
謙徳公
おほかたは今は老ぬへし秋露にまかせつる菊の上の露
清慎公
うき世風ふる乃夜とちりあひるか色の枕とは今そしりぬる
夏乃夜女のもとにまかりて侍けるよ人につかはしける
いと深く物わひしく侍るにおもひける
藤原清正
みしかよの夜の秋もあけぬるか夢はさめてやつらき暁の空

あみこよかたえいそ絶てわしあめよつらんし仏面

大納言清蔭

ゆくと停て志川らんなからの春乃池の藤なみや靑との心
色とひ乃うつくしとひろか抱かりわしてこれわ侍ん
よるら人のけさ五て停らくとの花をとりきこし中

和泉式部

行かりよとゐるらな
志らさうと歎なきふむいそうの春乃池なとと遠とそよ

題しらす

赤染衛門

抱かくにしき風をねかえ紀行の貴合加ゝ
來ゝ宮出かてわしあよ清きしき

九條入道右大臣
（入道不審師輔公也　九条内大臣良通ニハアラス）

徳つくと君か乞よかすむ霞にうかさとはなをよそふらに

小八條乃家に衆へよつかはしける

亭子院御哥

春花よかり遅かる桜は咲きて花をさそわれぬとつくれぬ事にこそ

題しらす

藤原惟成

志らしまてあるさ絶長月乃有明乃月と人をなかむ
せんさい乃露をそぬらかとちてらくんをかまし と

中務乃女王

実方朝臣

花まてたれ袖のぬれて侍とし草乃露乃やとりけるらん

後撰 春三

六帖五

万四

万十

ガラス使用

[illegible]
白[illegible]野の
[illegible]
[illegible]

女みこにかよひそめて[illegible]つかはしける

大納言清蔭

[illegible]待て[illegible]春乃野の若[illegible]君[illegible]の[illegible]らん

[illegible]ひの[illegible]ひらく梅か[illegible]わし[illegible]

[illegible]人のけさ[illegible]侍しとの[illegible]

[illegible]

和泉式部

[illegible]春乃[illegible]えて

題しらす　　赤染衛門

[illegible]梅かえに志[illegible]ね[illegible]

志[illegible]

後撰 巻三
寛平のみかと[illegible]
[illegible]
小八条御息所
[illegible]

六帖五 [illegible]

万四 [illegible]

万十
月しあれはあくらんきはも
しらすしてねてわかくるを
人見けんかも

九条入道右大臣

入道不審 師輔公也 九条内大臣良通ニハアラス

[illegible]つくも君か[illegible]

小八条乃家[illegible]つかはしける

亭子院御哥

手枕よかはす[illegible]

題しらす　　藤原惟成

志[illegible]長月乃有明[illegible]と

せんさいの露を[illegible]

中[illegible]女[illegible]　　実方朝臣

おきてみは袖のみぬれていとゝしく草葉の玉の数やまさらん

ガラス使用

古今
しのゝめのほから〳〵と
明行はおのかきぬ
〳〵なるそかなしき

二條院御時あかつきかへらんとする恋といふ
事を　　　　二條院讃岐

あけぬれとまたきぬ〳〵に成やらて人の袖をもぬらしつる哉

題しらす　　　西行法師

おも影のわすらるましき別かな名残を人の月にとゝめて

みよしののたのむ
の雁も

後朝恋の心を　　　摂政太政大臣

又もこむ秋をたのむのかりたにもなきてそかへる春の曙

契りとにまかりて霜のいかゝ侍りけれ
てはありけれは　（神主五位）　賀茂成助　（神主成真子天喜四年十二月九日叙外従五位下行幸賞）

誰行て君につけまし道芝の露もろともに消なましかは

小大進集
返し
ゆふくれもなをうちとけの
あさましともおもはまし
のせつゝ[illegible]
ましく

ありとにものを思ひにいひしとて月かはらぬむ
かくしつゝわかれし世とは　　　左大将朝光

（左大集）
消かへりあるかなきかの我身かな恨てかへる道芝の露

三條関白女御入内のあしたにつかはしける
花山院御製

あさほらけおきつる霜の消かへり暮まつ程の袖をみせはや

あひ思ふ人くはたゝ人のりより
いとゝつらしの
返撰　　えらひけれ
くやしさよ[illegible]
返し　　藤原くと
ゆふくれまつ[illegible]
[illegible]

法性寺入道前関白太政大臣家歌合に
藤原道経　（讃岐守顕綱子右京大夫 正寛治七年）

庭におふるゆふかけ草の下露やくれをまつまの涙なるらん

ガラス使用

新古今恋三
内にて小侍従によ
[illegible]
[illegible]
後徳大寺左大臣
[illegible]
別のつらさ[illegible]
名残[illegible]
よし　小侍従
これをけふ[illegible]
しらぬ人の[illegible]
[illegible]
かゝるの歌を
つかうまつて

題しらす　小侍従

待よひにふけ行かねのこゑきけはあかぬ別の鳥はものかは

正三位
藤原知家
三位顕家子有家猶子
法名蓮性

逢ふ事の[illegible]わやをも[illegible]暮を待[illegible]命なりけり

西行法師

さりともと思ひし世あれや[illegible]

清原元輔

家
大井川ゐ（み）せきの水のわくらはにけふはたのめし暮にやはあらぬ

けふと[illegible]たる人の[illegible]といひ侍りけれは

読人しらす

夕暮に命かけたるかけろふのありやあらすやとふもはかなし

王褒聖主得賢臣頌
蟋蟀俟秋唫蜉蝣出以陰

西行法師人々にすゝめて百首歌よませ侍るに
定家朝臣

あちきなくつらき嵐の声もうしなと夕暮に待ならひけん

恋哥とて　太上天皇

たのめすは人をまつちの山なりとねなましものをいさよひの月

水無瀬にて恋十五首歌合に夕恋といふ心を
摂政太政大臣

なにゆゑと思ひもいれぬ夕へたに待出し物を山のはの月

寄風恋
宮内卿

字マれほうゝけ
あう羽うりけゝ男
ゐしけく女乃方
よ行きへくんとあ
る人しき

きくやいかにうはの空なる風たにも松におとするならひありとは

題しらす　西行法師

人はこて風のけしきもふけぬるにあはれに雁のおとつれて行

後拾雑三　[illegible]
松風は色やみとりにふくならん
ものおもふ人の身にそしみけれ

八條院高倉

いつもきく物とや人の思ふらむこぬ夕くれの松風のこゑ

鴨長明

たのめおく人もなからの山にたにさ夜ふけぬれは松風のこゑ

藤原秀能

今こむと頼めし事を忘れすは此夕暮の月や待覧

待恋といへる心を　式子内親王

古今
君こすはねやへも
いらしこむらさき
わかもとゆひに霜は
おくとも

君まつとねやへもいらぬまきの戸にいたくなふけそ山のはの月

恋哥とてよめる　西行法師

たのめぬに君くやと待よひの間のふけゆかてたゝあけなましかは

有明のつれなくみえし
別より
長明云名ある歌にて
集によき歌三首にて
ありての中の一なるし

定家朝臣

帰るさのものとや人のなかむらむ待夜なからの有明の月

題しらす　よみ人しらす

作者

君こむといひし夜ことに過ぬれはたのまぬ物の恋つゝそふる

人丸

万十三作者未詳

衣手に山あらし吹てさむき夜を君きまさすはひとりかもねん

右大将朝光ひさしう音信れ侍てさひらの家

新後拾秋上　大蔵卿有家
まとろまぬ夜半のねさめの
ゆめのうちにしらぬ（？）ゆくへを
まつ月もさやかならん

夕まくれわひしく枕のかけは夜半草むすひもひらくまて

題しらす　　馬内侍

何事も見しられやかきさわれぬるはひとり草葉の枕とも霜かれぬらむ

天暦御時まうしいてよわれやと侍けれは

女御厳子女王

六
あはれゆくは浮世をかれたやと東のあはの海の浦やさしもさらん

わひしく侍はあひかくさらせよ

坂上是則

後拾恋三　大和宣旨
きのふまて秋の野中に
とよむ声のうらしま
くるともみえぬ

家
ひとりねの秋の野なれは思ひ寝のあさちかはらに沈みしかる

三条院みこの宮と申ける時ひさしくさふらはて

後拾恋四　中務
秋風の吹にけるかも
とこなつのあさとのあ
ひさしくもなし

後拾遺雑二　源乃宗
そのかみのゆめかたり
秋風はよしけれは
菊のちるさえ

こ海人のなかれて

安法法師女

世にふれはの秋風ふきて萩の花さへもかはれる君か心に

題しらす

中納言家持

家
万ノ家持ニナス
足曳の山かけ草に結ひおきて恋やわたらんあふよしをなみ

拾遺恋一　人丸
奥山のいはかきぬまのみこもりに恋ひやわたらんあふよしをなみ

後拾恋三
あはれなるのつらさはしらしあふ
いつも月日のゆくにまかせて

延喜御製

あつまちにかるてふ萱のみたれつゝ束のまもなく恋やわたらん

権中納言敦忠

新古今集　隣（？）藍
まちわひてたのめしことも
ありしかなつきせぬものを
とらへてうき世なら
うん

家集つくし
結ひをきし袂たに見ぬ花薄かるともかれし君しとかすは

百首歌中に

源重之

家
霜の上に今朝ふる雪さむけれは重ねて人をつらしとそ思

百首歌中夏

題しらす　安法々師女

独ねのわひしき宿の床の上にあはれいく夜のねさめしつらん

源重之

山城の淀のわかこもかりにきて袖ぬれぬとはかこたさらなむ

こうえと　ふたけ　うらみへしやと

貫之

あけくれ思ふ人をはおきれとわすれにし面影はしぬものなれ

六玉くしけ 筥部

夏つくしけ箱をかさらはいかなりもあはれ

なれたとこのかけちていかにしちをみく

うらみまてを見るかいなれをこそ待ちなれ

平定文

六帖
ちはやふるたゝすの神
のまへなるゆふたすき
かけつゝちかへ

古今
えそしらぬ今こゝろみよ
命あらは我やわするゝ
人やとはぬと

偽をたゝすの森のゆふたすきかけつゝちかへわれを思はゝ

鳥羽院御製

偽をならはかれはかましりの女にゆふかたをもはかせ
なる思ひのほとを

入道前関白太政大臣

我ためはつらきを思ふ人やわれを今世にわかん思ひわくせを

摂政太政大臣家百首歌合に契恋といへる心を

前大僧正慈円

あらはあらたと見え人の偽をかさねて◯てうたはしと心みめ

女をうらみく月を見て海のしと申て後[illegible]

独かくて思ふ人たにつらかりき

千恋三 待賢門院加賀
かねてより思ひしことよ
伏柴のこるはかりなる
なけきせんとは
とも

左衛門督家通
中納言
大納言重通子

つらしと思ふ[illegible]

[illegible]侍りける女[illegible]事侍りける[illegible]
[illegible]て久我内大臣のもとにつかはしける

読人しらす

[illegible]ときの[illegible]めくりて[illegible]

返し

久我内大臣

わすれすも[illegible]露と思ひき涙の[illegible]我身[illegible]

題しらす

小侍従

つらきをも恨みぬ我にならふなようき身をしらぬ人もこそあれ

詞花恋上 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

玉葉恋五 定家
惜からぬ命も[illegible]
[illegible]
[illegible]

殷富門院大輔

何かいとふよもなからへしさのみやはうきにたへたる命なるへき

新後撰恋三
よしさらは恋しなんとも
[illegible]
入道前太政大臣

刑部卿頼輔

恋しなん命は猶もおしきかなおなし世にあるかひはなけれと

続拾遺恋二 侍従能清
いたつらの[illegible]こひしなて
おなし世[illegible]

西行法師

あはれとて人の心のなさけあれなかすならぬにはよらぬなけきを

身をしれは人のとかとは思はぬにうらみかほにもぬるゝ袖かな

女につかはしける哥

皇太后宮大夫俊成

よしさらは後の世とたにたのめおけつらさにたへぬ身ともこそなれ

題しらず

藤原定家朝臣
若狭守親忠子

あぢきなくつらき嵐の声もうしなど夕暮に待ちならひけん

新古今和歌集巻第十四

恋哥四

中将に侍りける時女につかはしける　清慎公

よひ〱に君をあはれと思ひつゝ人にはいはで音をのみぞなく（こゑ）

題しらず　清原深養父

恋ふとも思ひ出るとひくを[illegible]つか[illegible]かくせな

大和物語
少将よし[illegible]
[illegible]

少将滋幹につかはしける　女

大和物語

恋しさに死ぬるいのちを思ひ出て問ふ人あらばなしとこたへよ

[illegible]事侍りて[illegible]

ガラス使用

源氏若菜上　ゆするつき
晴花ひんかうひれなし
花　泔器（ユスルツキ）　有基ニ弁蓋

續古今巻五
中務卿親王
今はまた新[illegible]しらぬ
しら人の[illegible]
[illegible]

ゆ川のたえまもありてほのかにけむ
謙徳公
別[illegible]今日より梅つけたる[illegible]
返し
恵子女王　贈皇后宮母（イナ　しのイ）
[illegible]わかれ行[illegible]
入道摂政ひさしくまうてこさりけるころ
おきて出にしゆするつきの水入れなからありけるを
見て
右大将道綱母
絶ぬるか影たに見えはとふへきをかたみの水はみくさゐにけり（あきつハ蜻蛉）
[illegible]ひさしく[illegible]わたり[illegible]

伊勢集云
人のもとへおく
しろかねの[illegible]
みて
[illegible]
[illegible]
[illegible]
こあまよめ
枇杷左大臣歌也

後朱雀院の御[illegible]
陽明門院（三条院后）
かく[illegible]別[illegible]つゝあやめ草[illegible]
題しらす
伊勢
[illegible]
こゝろならずまかりけ[illegible]
[illegible]風[illegible]もおもほ
[illegible]入道摂政の[illegible]
人に[illegible]
右大将道綱母
吹風につけてもとはむさゝかにのかよひし道はそらにたゆとも（らん　蜘蛛）
[illegible]ひさしく[illegible]
しける
大齋院
葛葉にあらぬ我身も秋風の吹につけつゝうらみつるかな
古今　秋風の吹うらかへす葛の葉のうらみてもなほうらめしきかな　平貞文

ガラス使用

新勅撰　巻四
題しらす　御製
あくれて色まさり
ゆく草よりも人の
うつろひぬよ
きえらしれ

ひさしくまゐらさりける人に

延喜御製

霜さやく野辺の草葉にあらねともなとか人のかれまさるらん

返し　　よみ人しらす

淺茅おふる野辺やかるらん山かつのかきほの草は色もかはらす

春よりなやみて侍りけるころ[illegible]

[illegible]

返事とて[illegible]

女御徽子女王

玉葉[illegible]
いはむとも[illegible]秋の紫とそ見る

御返し　　天暦御製

今こんと[illegible]

[illegible]

朱雀院御製

むかしの[illegible]

返し

女御熙子女王　文彦太子女

思ひやる[illegible]

麗景殿女御[illegible]

[illegible]　後朱雀院御製

春雨の[illegible]

ぬなし　女御藤原生子
二条関白女

後撰恋中　藤原師尹
まろ御のいでつれて
もろゆくにれゝ成
まとろまれぬよ
まし

あはやこゝろに枕ならでは露ならぬとも思ひしられし
又ぬらす袖　後朱雀院御製

古今恋四　読人不知
あはれてふことこそうたて成
世の中を思ひはなれぬ
ほだしなりけれ
人をまたまし

言葉にはかゝらぬひとも思ひそめてん色にこそいでぬべし
ぬなし　女御生子

日別　友則
ことの葉のみなしもかれて
くらぶ山ふもとのしげき
めぐりても

淺緑ふかくもあらぬ青柳は色にて秋ぞかぎりなるらむ
こやうとの中にろそんがよ植ゑし蓬とみしかば
ぬありけるかな　實方朝臣

名所一秋　紀伊
かつらぎやくもらぬ
うらのとこよにも
見しものこゝろき
左一そらあきの
日きつのいとゞ
人のまつまとらん

伊勢人のあみかけし人もとらむ花そのうつし袖にそ見ゆ
（の）
ぬなし　よみ人しらず

かれはなる葎のしたにかくれぬとみやまもいかゞ
ひらけゆくこのやまにけふよりぞまけゆくさまける
天暦御製

金葉雑上　皇后宮美濃
よるしまかゝまし
のこかりのつまかに
りのてとかりつれ

（ち）
わ雲をとどいつきみえて月影の秋の夜ながらまつくらん
遅しらず　伊勢

けふしなやまずして岩まの風につけても沈むと思ふて瀬戸
中務

源氏浮舟
いつくにかてとらえて
そんでゝ白雲のかゝら
ぬ山もなくなくぞゆく

（ち）
わそてともわくれね思ふをはさねぬる夜の月かはりけるかなくぞ
（ころとも）（み）
躬恒

家集には延喜十七年九月
十日法皇石山にまうで給
けるに大井にて
屏風の歌これを
のみならずよれ

更級の山よりほかにてる月もなぐさめかね○このころの空

（ち）
ほかりけるよしふる
二首のうちのうし

馬内侍集公任

ともへ人しらす

わか為乃こ成をしめて侍りけれはかの人きてもそまかりわたる

（六帖第一　有明の影　天をみて[illegible]絶の[illegible]うき人[illegible]）

かゝみえし月を見しとかへりきて[illegible]のいゑより[illegible]

（とあるを　第五帖人を待影　天をみし[illegible]つまつの月[illegible]有明[illegible]）

（し神　馬内侍集）

人のつかはしける哉　紫式部

いるかたはさやかなりける月影をうはのそらにもまちしよひかな

（此歌[illegible]新古今第五　天[illegible]と押[illegible]の月[illegible]うき人[illegible]二そ[illegible]人の[illegible]）

題し

讀人しらす

さしてゆく山のはもみなかきくもりこゝろのそらにきえし月影

題しらす　（大和守五位）

藤原經衡　（中宮大進公業子）

[illegible]ありて別し袖の月をも見る涙よくもれ[illegible]

肥後

なにとかけの思ひねに[illegible]とこそ人の[illegible]

後徳大寺左大臣

[illegible]人の月いかに[illegible]のゆかわそと思ひあかしもおきあかしつ

西行法師

月のみやうはのそらなるかたみにて思ひもいては心かよはむ

くまもなきをりしも人を思ひ出てこゝろと月をやつしつるかな

相[illegible]くみかむしるこ[illegible]月乃色よいかにかなるあまの[illegible]うし

八條院高倉

拾遺

[illegible]

百首歌中に

[illegible]しなかむる哉[illegible]月よ[illegible]ゆく人乃面影

太上天皇

於千　直幹
立かへるほとに雲の
にたちぬることもさそ
月のかつあらはるく

於玉四　伊勢
はるかなるほとにもかよふ
心かなさりとも
人のしらぬものゆゑ

わすらるゝ身をしる袖の村雨につれなく山の月は出けり

千五百番歌合に　摂政太政大臣

めくりあはむ限はいつとしらねとも月なへたてそよその浮雲

我涙もとめて袖にやとれ月さりとて人のかけは見えねと

権中納言公経

恋わふる涙や空にくもるらん光もかはるねやの月かけ

左衛門督通光

幾めくり空行月もへたてきぬ契しなかはよその浮雲

撰者　歌上のことし

右衛門督通具

今こむと契しことは夢なから見し夜に似たる有明の月

二条家性高の名

有家朝臣

忘れしといひしはかりの名残とてその夜の月はめくりきにけり

題しらす　摂政太政大臣

思ひいてゝよな〳〵月にたつねすはまてと契し中や絶なん

家隆朝臣

忘るなよやとる袂はかはるともかたみにしほる夜半の月

法眼宗円　延暦寺[illegible]法眼兼宗子

そのまゝに松の嵐もかはらぬを忘やしぬるふけし夜の月

藤原秀能

人そうき頼めぬ月はめくりきて昔わすれぬ蓬生の宿

拾恋五　平忠依
忘れしといひしもあれは
つらくもならすやちら
かはりしゆくらぬと

後拾遺恋二　すけ
忘れしとおもひしへき
みなあぬとも経とく
なくてもくれりさん

古今
君をおきてあたし心を
わかもたはすゑの松
山なみもこえなん

八月十五夜和歌所にて月前恋といふ事を
摂政太政大臣
わくらはに待ちつるよひも更にけりさやは契りし山のはの月
有家朝臣
忘れしといひしはかりのなこりとてその夜の月はめくりきにけり
定家朝臣
松山とちきりし人はつれなくて袖こす浪にのこる月影
千五百番歌合に
皇太后宮大夫俊成女
ならひこしたかいつはりもまたしらて待とせしまの庭の蓬生
経房卿家歌合に久恋を

後拾雑三　和泉式部
あとのこゝろしほとに
すみつくあるにまれ未
みよとちきりしを

拾恋三　人丸
たのめつゝこぬよあまたに
なりぬれはまたしとおもふ
そまつにまされる

夕顔
ほのかにも軒はの荻を
むすはすは露のかことを
なにゝかけまし

蓬生
尋ねてもわれこそとはめ
みちもなくふかき蓬の
もとの心を

新続古今恋二　従三位保季
[illegible]
[illegible]

続千載秋下　俊成女
忘れても忘れぬ月の影さへ
[illegible]の宿のつゆと

二条院讃岐
あとたえて浅茅かすゑになりにけりたのめし宿の庭の白露
摂政太政大臣家百首歌合に
寂蓮法師
こぬ人を思ひたえたる庭の面の蓬かすゑそ待つにまされる
題しらす
右衛門督通光
尋ねても袖にかくへき方そなきふかき蓬の露のかことを
藤原保季朝臣
かたみとてほのふみわけしあともなしこしはむかしの庭の荻原
法橋行遍

古今
風ふけは峯にわかるゝ白雲の
たえてつれなき
君か心か

いまこんといひし
はかりに長月の
有明の月を待
出つるかな

名残をは庭の浅茅にとめおきて誰ゆへ君かすみうかれけん

摂政太政大臣家百首歌合に

定家朝臣

忘れすはなれし袖もやこほるらん寝ぬ夜の床の霜のさむしろ

家隆朝臣

風ふかは峯にわかれん雲をたにありし名残のかたみとも見よ

百首哥よみてたてまつりし時

摂政太政大臣

いはさりき今こんまての空の雲月日へたてゝ物思へとは

千五百番歌合に

家隆朝臣

拾遺五　読人不知
いましはと人この里
うらみきいやすらひ
あはぬみしらまし

思ひいてよ誰かゝねことの末ならんきのふの雲のあとの山かせ

二條院御時艶書の哥めしけるに

刑部卿範兼

忘れ行人ゆゑ空をなかむれはたえ〳〵にこそ雲も見えけれ

題しらす

殷富門院大輔

忘れなはいけらむ物と思ひしにそれもかなはぬ此世なりけり

西行法師

うとくなる人をなにとて恨らんしられすしらぬ折もありしに

今そしる思ひいてよと契りしは忘れんとてのなさけ成けり

建仁元年三月哥合に逢不遇恋のこゝろを

土御門内大臣
あはれまて青波のうへにふくそ風のことも変よる世とや

権中納言公経
わすれ猶それ庵かんのゆふわとこと見てもれ露を誰のさそひめん

右衛門督通具
契きやあかぬわかれに露をきし暁はかりかたみなれとは

寂蓮法師
恨みわひまたし今はの身なれとも思ひなれにし夕暮乃空

於 人丸
たのめてこぬおもあまさ
よ車めれもますしと
そつて待るまさゆり

南集も三
ときあのの行来
ますとそかくりあに
さし

宜秋門院丹後
わすれしのこと葉いかに成にけんたのめし暮は秋風そ吹く

家に百首歌合し侍りけるに
摂政太政大臣
思ひかね打ぬるよひもありなまし吹たにすさへ庭の松風

有家朝臣
仍てぬに恨と思ふ起しよる露もそに秋の袖露けく

古て
こうきとこうれのとさ
とけちしうらめつ
しさあのみつそ

題しらす
読人しらす
心八待つとも秋ならの寝覚にも身にしむ風のいろそ聞く

西行法師
あはれとてとふ人のなとなかるらん物思ふやとの荻乃上風

入道前関白太政大臣家百首歌合に

秋風の音とよみ給
へるを判者俊成卿秋
の声といひてなとかは
秋風の声とは侍ま
しきよし難せられ
けるに松風の声
と読くつれなる
あるへしとそ申ける

貫之集　六帖
いつも吹風とはきけと荻の葉のそよくおとにそ秋はきにける
同心とも　後拾遺　秋上

俊恵法師
我恋ハ今をかきりと夕まくれ荻ふく風のおとつれて行
題しらす
式子内親王
いまハたゝ心のほかにきくものをしらすかほなる荻の上風
家百首歌合に
摂政太政大臣
ふらんこぬ夕くれの松風の聲
前大僧正慈円
心あらハ吹すもあらなんよひ〳〵に人まつ宿の庭の松かせ
和歌所にて歌合し侍りしに逢不遇恋の心を
寂蓮法師
里ハあれぬむなしき床のあたりまて身はならはしの秋風そふく
拾遺四
手枕のすきまの風もさむかりき身はならはしのものにそ有ける　読人不知
水無瀬恋十五首歌合に
太上天皇
さとはあれぬ尾上の宮のおのつから待こし宵も昔成けり
此歌上句を万二十ニ高円の尾の上の宮ハあれぬとも
たゝしゝ君のみなわすれめや　とあるを本歌にとられたるそと
定家朝臣　治部少輔今々娘之人
松思へハあへてたかくま乃寝よふぬるゝ袖乃秋乃夜を
建保二年内裏秋十五首歌合　曰へ
とへかしなあきをもまたぬ秋の夕くれも
かせうらみの秋のゆふくれ
雅経
草枕結ひさためんかたしらすならはぬ野辺乃夢のかよひち
和哥所哥合に深山恋といふことを
家隆朝臣

夫木十五
光明峯寺摂政家六首歌合
故郷秋萩　従三位範宗卿
あれしよりいくよかけしたかまとの尾上の宮の秋の萩はら
万葉廿云依興各思高圓離宮處作歌五首　高円の野のうへの宮ハあれにけり
たゝしゝ君の御世とをそけは　家持　次ノ城之人亦次ゝの歌ハ
高円の野のうへはふくすの絶
わすれし高円乃尾上名ニ
こえのへの宮の上乃
宮をも尾上乃宮とも
よめり
續後拾遺　光俊
よのほかのおもひ人
乃おもふらんめもよくハ
めもしぬるくさく

秋風の声しとよみ給
へるを判者俊成ハ秋
の声とはいひてなるに
秋風の声とは侍るま
しきよし難せられ
けるに松風の声
とは詠くつかなる
あるへしとそ侍る
六帖
うらしく泣ちつゐと
ことはいとをけめへよ
秋風の声

俊恵法師
我恋ハ今をかきりと夕まくれ荻ふくかせの音つれて行
題しらす
式子内親王
いまはたゝ心のほかにきくものをしらすかほなる荻の上風
家歌合に
摂政太政大臣
いつもきく物とや人の思ふらんこぬ夕くれの松風の声
前大僧正慈圓
心あらはふかすもあらなんよひ〳〵に人まつ宿の庭の松かせ
和歌所にて歌合し侍しに逢不遇恋の心を
寂蓮法師

夫木十五
光明峯寺摂政家六首歌合
秋日秋葉　従三位範宗卿
霧しれはくもをかけてたかまとの尾上の宮の秋のゆふくれ
万葉廿云依興各思高圓離宮處作歌五首　高円の野のうへの宮ハ
荒にけりたゝしゝ君の御世とをそけハ　家持　次々作も同人家持の歌ハ
高円の峯へとよめるを
これも高円乃文字名に
よそへて野の上の
宮をも尾上乃宮とも
よめり
續後撰秋上　光俊
よのつねの秋のあはれを人
のみしるらんゆふくれに
ぬるゝ袖そとはなく

里はあれぬむなしき床のあたりまて身はならはしの秋風そ吹
拾遺四　手枕のすきまの風もさむかりき身はならはしの物にさりける　読人不知
水無瀬恋十五首歌合に
太上天皇
さとはあれぬ尾上の宮のおのつから待こしよひも昔なりけり
此尾上宮を万二十ニ高円のをのへの宮ハあれぬともたゝしゝ君のみなわすれめや
こゝにかく尾上とよめる心そとて
有家朝臣
治部少輔今條主人
物思はてたゝおほかたの露にたにぬるれはぬるゝ秋の袂を
建保二年内裡秋十五首歌合　同
もへてきてをきぬ袖の露しらしも
かわきらひの秋の夕くれ
草枕結ひさためん方しらすならはぬ野への夢のかよひち
雅経
和哥所歌合に深山恋といふことを
家隆朝臣

ガラス使用

家持集云 歟 恋つゝも
をらんとすれとゆふま山
かくれし君を思ひかねつも

是ハ万葉第十四東哥中ニ　古非都追母、乎良牟等須礼抒、遊布
麻夜万、可久礼之伎美乎、於母比可祢都母、此歌なとには中つまのと
ゆつまとうけたるを誤ちる上あけしの国未勘名所也

新後撰秋上　明慶
入道前太政大臣
ゆふま山いりつるしかのこゑに
しゐきまきその風に
とをかるらむ

続後拾春下
羇中花と云を
西園寺入道前
太政大臣
風わたる[illegible]中つ山
さくら[illegible]ちるらん

歟 古今　小町
今はとて我身時雨に
ふりぬれはことの
はさへにうつろひにけり

歟 六帖
人しれぬおもひをするかの
国[illegible]
らしの[illegible]もえわたれ

歟 [illegible]
[illegible]
[illegible]

さても猶とはれぬ秋のゆふ山雲ふく風も峰にみゆらん

六帖第二 [illegible]

藤原秀能

思ひいる深き心のたよりまて見しはそれともなき山路哉

[illegible]

題しらす　鴨長明

一 秋風のいたりいたらぬ袖はあらしたゝ我からの露の夕暮

千五百番歌合に　右衛門督通具

[illegible]

定家朝臣

[illegible]の下露

[illegible]

摂政太政大臣家歌合に

寂蓮法師

[illegible]恨[illegible]

前大僧正慈円

我恋ハ庭乃むら萩うらかれて人をも身をも秋の夕暮

八萩

万十一
[illegible]

[illegible]乃色を　太上天皇

[illegible]

定家朝臣

[illegible]

空 窑

家隆朝臣

後拾遺二
藤原実方朝臣
窒 音遥陶師焼瓦也
窯 音遥焼瓦也

新古今四
ちきるとも[illegible]

ガラス使用

家持集云　恋ひつゝも
をらんとすれとゆふまやま
かくれし君をおもひかねつゝ

是ハ万葉第十四東哥中ニ　古非都追母、乎良年等須礼杼、遊布
麻夜万可久礼之伎美乎、於毋比可祢都毋　此うたのゆふまやまと
ゆふまやまとかけるを後ちる上あけしの国ふ有名所也

新後撰秋上　[illegible]
入道前太政大臣
ゆふま山[illegible]
[illegible]の風よ
[illegible]

続後拾春下
霞中花と後
西園寺入道前
太政大臣
風かよふ雲よりうへのゆふま山
[illegible]

古今　小町
今はとてわか身しくれにふりぬれは
ことのはさへにうつろひにけり

六帖
人しれぬおもひするかの
国にこそ[illegible]
[illegible]

さてもなほとはれぬ秋のゆふま山雲ふく風も峯にみゆらん

六帖第二　[illegible]

藤原秀能

思ひいる[illegible]

題しらず
鴨長明

秋風のいたりいたらぬ袖はあらしたゝわれからの露の夕暮

千五百番歌合に
右衛門督通具

あきの風[illegible]秋とも[illegible]風なれと我身[illegible]

定家朝臣

秋とたにふきあへぬ風に色かはるいくたの杜の露の下草

此歌を[illegible]六帖を[illegible]

摂政太政大臣家歌合に

寂蓮法師

[illegible]

前大僧正慈円

[illegible]

太上天皇

[illegible]

定家朝臣

後拾遺二
藤原実方朝臣
[illegible]

千載後拾遺[illegible]
[illegible]

むせふともしらしな心かはらやに我のみけたぬ下の煙は

室　室

家隆朝臣

古今
こひしくはとふらひき
ませといふやまもとの心
すき杉たてる門

後拾四　西宮前太大臣
いつまてかあはまちあひて
をしとこそ[illegible]
[illegible]

しくまつおもかけし袖のほかにもとゝもちの雲と教へし秋[illegible]

皇太后宮大夫俊成女
露はらふ寝さめは秋乃むかしにて見はてぬ夢に乃こる面影

此歌の詞は源氏女の歌より[illegible]

摂政太政大臣家百首歌合に詠
前大僧正慈円
心こそ行衛もしらね三輪乃山杉乃木すゑ乃夕くれの空

百首歌の中に
式子内親王
さりともと待し月日そうつりゆく心の花の色にまかせて
生きてよもあすまて人はつらからし此夕暮をとはゝとへかし

[illegible]人の上をうらみけつるし

暁恋の心を
前大僧正慈円
あかつきのなみたや空にたくふらん袖におちくる鐘の音哉

千五百番歌合に
権中納言公経
つくゝと思ひあかし乃浦千鳥浪乃枕になくゝそきく

源氏須磨　いきのゝ浦千鳥のこゑをきゝつゝ
ちかいつきを成[illegible]

定家朝臣
須磨のあまの袖にふきこす塩風のなるとはすれと手にもたまらす

和泉式部
[illegible]
[illegible]

万四
[illegible]の海の[illegible]
後撰　恋三
[illegible]

合に
雅経
見し人乃おもかけとめよ清見かた袖にせきもる浪乃通路

皇太后宮大夫俊成女

しるまつおもはし袖にやとかるもとのへの露と教し秋の風

皇太后宮大夫俊成女

露はらふねさめは秋のむかしにて見はてぬ夢にのこるおもかけ

摂政太政大臣家百首歌合に詠

前大僧正慈円

むしろ行末もしらねは三輪の山杉の末まてあまるいろかな

百首歌中に

式子内親王

はかなくもさても過にし月日そとうつりゆく花の色にやはせて

待まてとやさともおもはてくるゝ人のつれなきそのとをきかなくに

暁恋の心を

前大僧正慈円

わかるれなみてもや見えなむ鏡の袖にかへるなみたのいろ

千五百番歌合に

権中納言公経

ほくとなりはわしの浦千鳥浪の枕になくそなく

定家朝臣

須磨のあまのつなれの杉の海と志ほはいかなれはかくは

水無瀬恋十五首歌合に

雅経

ふ人の杉をしけとめて清見か関袖にせくなる浪の通路

皇太后宮大夫俊成女

秋けしとひしめるを
なりそらしにみえつ
しくえりとも有れ

婦わたる夕まくれ毎ハ袖に秋けく待ひしいかにと結ひし（まよふ）
かよひこし宿乃みちしはかれ〳〵に跡なき霜のむすほれつゝ

万十二
白妙の袖乃わかれを
かたみしてあらつの
濱にやとりする
かも
同十二
白妙の袖乃わかれハ
をしけれと思ひみたれ
て赦つるかも
ゆるしつるかも

新古今和歌集巻第十五

恋哥五

水無瀬恋十五首哥合に

藤原定家朝臣

白妙乃袖の別に露落て身にしむ色乃秋風そ吹く

六帖 [illegible]秋風[illegible]

藤原家隆朝臣

思ひいる身ハ深草の秋乃露たのめし末や木からしの風

前大僧正慈円

色明する名よ
秋古てよまれ
こと三首ことに
いて中の一首し

野邊乃露ハいろもなくてやこほれつる袖より過る荻乃上風

右近中将公衡

万十 せ
みちのへの尾花かもとの
おもひくさ
いまさらになにを
おもはん

道ひく野辺の露とはきえぬとも誰この家ゝを数とはかなむ

右衛門督通具

こゝろしかれぬ花のりし思ひ草さゝの野の露はいかにと

家に五十首歌よみ侍りけるに

権中納言俊忠

秋の月にきえゆく袖と露霜の侍りぬ思ひしと風のみやらん

題しらす

道信朝臣

わすれなと思ひしのとも露とわか袖思ひをぬ袖ぬれぬる房

藤原元真

なかなかに我身と露をきえなんと思ひつゝまた朝の風

老の目て侍る女の後にあはむかつわたしとぞふ歌

待るをしこの房たとこまかしまて

和泉式部

今はとて侍ふしのことかれゆくに置く露何をあらん

後撰恋五
ことのはもしかれなは
わか身にもなにはの
やまとも知らしとて
見よ

たのみえる事なく侍らねは侍に見えそけく

新千恋二　亭子院御製
あさきゆめのこともみえるいたつらと
おもひしけきそらの人やみ

わかれ事をもしく侍るの後事に

藤原長能

わすらの露にをく露きえこそもえにとてやみのかけ

続千恋五　國助
命とはつかへてし
中々にあらぬよの
人そしらし

藤原雅俊に侍りけるしる

読人しらす

うらさへくやはらの御文宮城野の小萩の下葉色つきけれ
詠し　藤原雅経
萩の葉や露の宿りとちらぬまにかはくわかゝるひの袖
題しらす　花山院御製
秋夜さへこゑにあはれの我身の涙の色にましるらん
ひとしきまて月のぬれ人よ

古今
秋ならておく白露は
ねさめする我手枕の
しつくなりけり

光孝天皇御製
君かせぬ我手枕は草なれやなみたの露のよな〳〵そおく
題しらす　よみ人しらす

ゲ
小町
おろかなる涙そ袖に
玉はなす我はせき
あへすたきつせなれは

露はかりおくらん袖はたのまれす涙の川のたきつせなれは

みちのくにはへらす侍ける女に九月はかりに
遣はしける　重之

続後撰恋一
元良親王
今こそとたのめしことの
はなきこのゆふくれの
むしのねのなからん

家集不載

思ひやれまたこそのむら雲かゝつわくらる原に霜ぞおくらん
こゝ事侍ける秋の夕暮とわか身のうへくよみて
侍ける　六条右大臣室

権中納言俊信女

古今ゲ
秋といへはよそにそきゝし
あた人の我を
ふるせる名にこそ
有けれ

源氏若菜　身にちかく秋やきぬらん見るまゝに青葉の山もうつろひにけり　紫上

身にちかくきにける秋の人のこゝろの秋をそれと思ひしるかな
題しらす　相模

後撰雑二
色見えてうつろふものは
世の中の人の心の
花にそ有ける

いろかはる萩の下葉をみてもまつ人のこゝろの秋そしらるゝ
侍あつ月ひてゝさぬをひとのかはれはつらかりのこゝみえしまてとも
謙徳公

拾雑恋　[illegible]
[illegible]

人しれぬ寝覚の涙ふりみちてさもしくれつる夜半の空かな

涙の[illegible]

光孝天皇御歌

坂上是則

枕のうくとこそ思ひし涙川[illegible]

よみ人しらす

（行あ）我袖の[illegible]

（万十一）[illegible]袖別[illegible]

（大和物語）[illegible]

浦[illegible]

橘公平女三女
六帖の歌[illegible]

拾衣一　[illegible]

古今恋四　読人不知
[illegible]

（伊勢）忘らんと思ふ心のつくからにありしよりけに先そ恋しき

（口）うれしきもうきも心はひとつにてわかれぬ物は涙なりけり

（後撰雑二）（拾遺集）

（六）今[illegible]

（六）[illegible]

拾雑恋
世の中[illegible]

後拾遺集
[illegible]

伊勢集

六

（伊勢）[illegible]

（万十二）[illegible]

（伊勢）[illegible]

六人九

万十一
[illegible]
日本　家持卿云
[illegible]

六帖よるこうの[illegible]
家持　八代女王とし
三首ともに
[illegible]
の川よみそきまよ
ゆく
是は万葉の字あ
なるし八代女王の前
に[illegible]あり
[illegible]
是西川瀬の世[illegible]
[illegible]
[illegible]
　後の二首を他人の歌し
六帖の作うとえし知へし

六帖の歌[illegible]
ひ[illegible]別[illegible]山鳥[illegible]を待[illegible]
大和[illegible]この女[illegible]
我[illegible]今[illegible]
[illegible]
人丸

万四人丸
六 夏野ゆくをしかの角のつかのまもわすれず思へいもか心を

万十作者未詳
人丸集
六 夏草の露わけ衣きもせぬになとわか袖のかはく時なき

ヤシロノ
八代女王
續日本紀矢代女王
六帖と作者[illegible]
六 御祓するならの小川の河風に祈りそわたる下にたえしと

清原深養父
孟津
恨わひぬる夜乃袖のかはかぬは枕乃下にしほやみつらん

中納言家持につかはしける

此歌[illegible]
山口女王
万四
あしへよりみちくる塩のいやましに思ふか君かわすれかねつる
此又山口女王の歌[illegible]六帖[illegible]
六 しかの海[illegible]

題しらす
赤染衛門
[illegible]
参議篁
[illegible]
伊勢
[illegible]
人のあるし
盛明親王
上野大守
延喜皇子

ガラス使用

忘れゆく人
と夢のこゝろ

春の夜の夢のしるしはつらくとも見しはかりたにあらは頼まむ

女御徽子女王

家集云よへの夢
夢よりもうつゝのさひしき
まいりのあと

ぬる夢にうつゝのうさも忘られて思ひなくさむ程そはかなき

春の夜女のもとにまかりてあしたにつかはしける

能宣朝臣

かくはかりねてあかしつる春の夜にいかにみえつる夢にかあるらん

元真集上ニ出
涙川身もうくはかり
なかるれときえぬは
人のおもひなりけり

題しらす

寂蓮法師

涙川身もうきぬへき寝覚かなはかなき夢のなこりはかりに

百首哥よみてたてまつりしに

家隆朝臣

古今 小町
秋の夜もなのみなりけり
あふといへはことそともなく
あけぬるものを

あふとみてことそともなくあけにけりはかなの夢の忘かたみや

題しらす

基俊

詩云
十月蟋蟀入我牀

床ちかしあなかま夜半のきり〳〵す夢にも人のみえもこそすれ

千五百番歌合に

皇太后宮大夫俊成

哀なりうたゝねにのみ見し夢のなかき思ひにむすほゝれなん

題しらす

定家朝臣

後拾遺三 和泉式部
黒髪のみたれもしらす
うちふせはまつかき
やりし人そこひしき

かきやりしその黒髪のすちことにうちふす程は面影そたつ

和歌所歌合に遇不逢恋といふことを

皇太后宮大夫俊成女

拾云
夢よりもはかなき物は
かけろふのほのかに見えし
かけにそありける

夢かとよ見しおもかけも契しもわすれすなからうつゝならねは

述懐とて　　式子内親王

はかなくそ志らぬ命を歎きこし我かねことのかゝりける世に

[illegible]

色に[illegible]世[illegible]

崇徳院に百首哥たてまつりける時述懐哥

皇太后宮大夫俊成

（續古今　述五　式子内親王　[illegible]）

思ひ侘見し面影ハさておきて恋せさりけん折そ恋しき

題しらす　　相模

（詠イ）

[illegible]君よ[illegible]求ぬ袖乃涙[illegible]

[illegible]

（後撰　[illegible]）

（[illegible]　馬内侍集[illegible]）

やと申侍けれハよめる　　馬内侍

[illegible]事ハ思ひすてゝ[illegible]

むかしみけん人の[illegible]

（次第司）

[illegible]

（續古述五　光明峯寺入道前摂政左大臣　[illegible]）

春[illegible]道の往来をさへ[illegible]

[illegible]

[illegible]　　菅原仲[illegible]

花[illegible]の[illegible]海人の侍[illegible]

[illegible]を[illegible]人は

大納言經信母

（播磨守源国盛女）

源氏 かりやさしにあて そこくすゝ もみけるのをみれ りき

とろつゝさこういはれとこ事い思とふ人のこゝろ残りけり

忠盛朝臣ひさしく極くまなかにて乃ち住くれりい
そんいさゝてそとつれな事とうちいひかけて
侍りける返事に　前中納言教盛母

（六帖 神山のあとゝみのはまよりまたくやしとゝめとのそとゆく）
ある程も今こそぬれつらかりてかへりし袖のぬれにける

題しらす　（刑部少輔家基女）郁芳門院尾張（大宮権大夫家隆卿女）
たけにかはりて人のつらかりし世をうらみしそくやしかりける
和泉式部

住あ見くいたゝ世よあかれてそえんくさも思と思へとさらへな
深養父

六帖 第五 うれしくもあしくもなし思のはてきこゝ人の形見なりけり

（六帖 第四）う継しくも思ふ事もの遠つ紀えかなく形見なりけり
素性法師

哀
何ことの形見と思ふに色見えて（えふイ）うつろふ人の心なりけり
小野小町

哀
露分てあかぬとのこたとゆはまつ人知られぬらわ
能宣朝臣

後撰五 後拾遺 上句全同 やまもとにて絶ゆりのみそれ

うつきやくあらは忘れ猿乃井とえみし井と成やならん
祭主輔親

古今 いにしへの野中のしみつぬるけれと もとの心をしる人 そくむ

今はとも思ひな絶そ野中なる水のなかれは行てたつねん
伊勢

家本[illegible]
小一條殿の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

六 家 思ひいつやみのゝを山のひとつ松ちきりしことはいつもわすれす

業平朝臣

六 いてゝ行は心かるしといひやせむ世のありさまを人はしらねは

斎宮女御につかはしける

天暦御歌

天の原そこともしらぬ大空におほつかなさを歎つるかな

返し

女御徽子女王

なけくらん心をそらに見てしかなたつあさきりに身をやなさまし

題しらす

光孝天皇御歌

[illegible]

兵部卿致平親王

天暦

思ひやる[illegible]

題しらす

躬恒

雲ゐなる遠山鳥のよそにてもありとしきけはわひつゝそぬる

弁更衣ひさしく[illegible]

返し

延喜御歌

雲井なる雁たになきてくる秋になとかは人のおとつれもせぬ

斎宮女御[illegible]

らさわなれしも

天暦御哥

着て秋まつくやと思ひしんかりかわ田のかりなきも

題しらす　西宮前右大臣

初雁のこゑのみきこえてつくしをまちこゝろ　またかれぬ

文部のころもてふ人待なから与すゑのよつゝ

ふしけ哉　藤原雅成

さきの衣かわしちるなれはゆめにおりのけなきて去に

題しらす　藤原元真

任なれ此君とも草もおもはえてかれせよりの身我れか記

秋文女なれしはは待ちのよ待ち事のおもひ

古今う関白
たちかにつらきゆん
伏ようの呂方上
君つらきのかさ

天暦御哥

あふ事のなかれて程もなかなかにあまのたくなはくるしきを海まて

いさしらぬはけ哉人のゆく

謙徳公

かくれぬのつゝみぬ歌のあえさらぬ命をかけてまつまん

題しらす　権中納言敦忠

もろともに海せさらぬ命ありてされはもとの世を

藤原元真

世の中をさとも思ひつれとも思ひさいとも思ひぬれ

思ひくからひける女のあやまきていさむ待

新古集
世中さいうきれ
人のみおもひを
うきうらみ
あさらしいそう待

女君
つらもしし
後撰恋三　なき名
それもよも思ひ
さのつらさにしき
ふしうらみぬらむ
かれ

古今
いにしへのしつのをたまき
いやしきもよきもさかりは
ありしものなり

くれて

参議篁

数ならはかゝらましやは世中にいと悲しきは賤のをたまき

しつのをたまき女のうた
くりかへしといへる

題しらす　藤原惟成

人かすも思ふ心をいかにしても〔くりかへし〕賤のをたまき

人はいやしきも〔ノコトデアリ〕

よみ人しらす

上の句一首にて
心つゝけ〔たれは〕
〔ことわりなり〕
下の句は
六人の

万十二
我ならぬ人も撫けく家妹の袖のなれにし君とも

万九
いにしへもかくやはありけん白妙の我衣手〔に〕露そおく

玉くしけあけまくおしきあたら夜を衣手かれてひとりかもねん

六帖のうたり
その本なし

万十
逢ことをまつ〔ほと〕こそいつの草葉の露のちるかな

秋の田のかりほの風のおとさへも秋を〔思〕ふつれなき

六帖の歌なるへし
その本なし

△ ちる塵の野もあるも見えぬかくる思ひそ今は忘れん

伊勢

ねをもなく撫ふしをも〔あつしもの〕かくしつゝみしくのことく波のみ

六　○ 浪たちさくらのこゑも浦のみるめもかなしと〔なき〕

六　清川のかくれみつまの流たえせぬ〔みな〕の流れなる

△ もしほのし　丈末十三云　歌不知　奇井良枝まろ人〔か〕と六帖もよき本ありぬへし

丈末四歌よりつけて　みなもとかへしの〔さ〕〔いは〕りそや〔みるめ〕の読るらん

○ 白浪立し　前本新撰和歌集〔作者〕又〔ゆ〕きつくの歌のうらのまゝに人をもちゐたるともそ

大和物語のみなほもしる〔歌〕こなれのうたにつゝあるを〔てらし〕みるといへる

古今
いにしへのしつのをたまき
いやしきもよきもさかりは
ありしものなり

賤しき女のつれ
なさをいへる

上旬一首ニ
見つけたることは
ことはりをあはせ
下句は
六人也

六帖の歌なるへし
その本なし

くれて　　　　　　参議篁

数ならはかゝらましやは世中にいとかなしきはしつのをたまき

題しらす　　　　藤原惟成

今をも思ふ心をいかにくりかへしやはよらは賤のをたまき

よみ人しらす

万十二
我ゆゑにいはれし[illegible]家妹の袖乃わかれの君とし[illegible]

同
今はわかれしとすれや白妙乃我衣手のひる時もなき

万九
玉くしけあけまくをしきあたら夜を衣手かれてひとりかもねん

逢事は[illegible]草葉の露のきえかへりまし

万十
秋乃田に[illegible]乃風のおとこそすれ[illegible]思ふつれなき[illegible]

六帖の歌なるへし
その本なし

伊勢
△さ磨の野もとのあさえそかほ花の思へる心もれなん
たはふれのあつしらの[illegible]わすれかくいひかくのことく[illegible]

六　〇浪たゝせくるこゑはある浦のみるめはえかたくなにけん

六　河浪のかゝる[illegible]みなそこの浪たのまえ[illegible]雲の[illegible]

△もと歌のし　夫木廿二云　読不知　[illegible]六帖[illegible]
夫木此歌につけて　[illegible]
〇白浪たゝし　古本新撰和歌集にはなし又[illegible]
大和物語[illegible]

ガラス使用

853
166

3194

ガラス使用